

# 大学院工学研究科の新しい出発



巻頭言



城野政弘\*

近年の急速な技術革新，社会・経済の高度化・複雑化，国際化・情報化の中において，我が国が21世紀においても創造力と活力のある国家として発展を続け，また国際社会において主要な役割を果たしていくためには，その原動力たる国際社会で活躍できる優れた人材の育成と世界を先導する創造的基礎研究，基礎技術の開発が不可欠であり，大学の果たす役割はますます重要となっている。この要請に応えるため，大阪大学工学部では4年計画で大学院重点化改革を進めてきたが，平成10年度の予算成立をもって完了し，4月からは正式に大学院工学研究科へ移行する。しかしながら大学改革は組織・制度を改めればすむものではなく，教育と研究の真の改革があってはじめて達成されるものである。その意味で大学院重点化改革は今年から始まるのだと云っても過言ではないと思う。

第一には優れた人材の育成であり，博士後期課程の充実が望まれる。現在は量の確保を各専攻にお願いしているが，本当は質の向上が問題であり，学生が望んで進学する条件整備が必要で，後期課

程のカリキュラムを含む教育・研究の中身の検討を通じ，魅力ある大学院を実現していくことが重要である。また社会人の受け入れに対しても双方にとっての利点を明確にする必要がある。さらには後期課程修了後の進路確保が重要で，その意味で産業界においても，後期課程修了者の活躍の場とそれに見合う処遇を考えていただきたいお願いする次第である。

第二には研究の高度化であるが，この問題は大学院重点化大学としての工学研究科にとっては当然の使命であり，先生方の努力により各分野において第1線の研究が行われていることは当研究科の誇りとするところである。しかしながら，現今の財政構造改革により一般経費は厳しく抑えられており，建物にいたっては基準面積にも遠く及ばない状態にある。このような状況の下で研究を高度化するには，限られた財源を有効に使用するとともに外部資金の導入，産官学の共同研究の積極的推進が重要となっている。地域の特徴を生かした共同研究，技術相談の窓口，特許，技術移転等これらの問題に対し研究科としても組織的に対応すべく学内の整備を進めているところである。

「地域に生き世界に伸びる大阪大学」の標語のもと工学研究科の新しい出発に際し，微力ながら精一杯努力していく覚悟ですので，皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

\* Masahiro JONO

1940年5月6日生

昭和43年大阪大学大学院工学研究科博士課程修了

現在，大阪大学大学院工学研究科，機械システム工学専攻，教授，工学部長，工学博士，材料強度学

TEL 06-879-7201 FAX 06-879-7756

E-Mail jono@mech.eng.osaka-u.ac.jp